

新型コロナウイルスの影響で、心と体の性が一致しないトランスジェンダーの当事者たちが、治療や手術の中止など心身に影響が出かねない状況に置かれたとする調査結果を、当事者グループ

「TRANS」(東京)の代表浅沼智也さん(31)＝総社市出身＝らがまとめた。非常時に見過ごされがちな社会的マイノリティー(少数派)の権利擁護が課題となっている。(石井聡)

# コロナでトランスジェンダーに医療問題 治療や手術中止も

当事者団体代表 浅沼さん(総社出身)ら調査

## 新型コロナで起きたトランスジェンダー当事者の医療に関する問題

受診・治療がストップした	21
個人輸入のホルモン剤が届かない(配達遅れを含む)	16
医療機関へのアクセス悪化	14
受診先の変更を余儀なくされた(結果的に受診が困難になったケースを含む)	14
通院に伴うコロナ感染が不安	13
従来の受診が困難になり、処方を変更	13
コロナ感染時の「アウティング」に不安	4
予定していた手術が中止	4

※浅沼さんらの調査に基づく (人)



浅沼智也さん

から回答があった。回答は自由記述で、浅沼さんが内容別(重複あり)にまとめたところ、21人が「受診・治療がストップした」とした。ほかに、「個人輸入のホルモン剤が届かない理由として「診療所の一時

浅沼さんは名古屋市長大の研究者らと協力して5月、新型コロナで治療などに影響が出ているかどうかを尋ねるアンケートをウェブ上で実施。全国にいる当事者に呼び掛け、119人(どちらか14人)などがあ

**自殺リスク 高まり警戒**  
G・I・D(性同一性障害)学会理事長の中塚幹也・岡山大学大学院教授(生殖医学)の浅沼さんらトランスジェンダー当事者を受け入れている岡山大病院(岡山市)でも、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ観点から、手術が数件中止になる影響が出た。また、当

## 心身への影響懸念

閉鎖」のほかに、「外出自粛で通えなくなった」「休業で収入の確保が難しくなった」などを挙げる回答も見られた。「予定していた手術が中止になった」(4人)と答えた人も。性同一性障害特例法では、戸籍の性別変更は性別適合手術を受けることが条件の一つとなっている。浅沼さんは「手術が中止されると、人生設計に影響が出かねない」と指摘する。

新型コロナウイルスに感染した際、性自認を本人の了解なく第三者に暴露する「アウティング」に遭う不安があると答えた人(4人)もいた。感染時の報道発表などで、自身の意に反した性別を周囲に知られる可能性を心配していた。

事者の自殺リスクの高まりに警戒する必要がある。もともと職場でジェンダーを巡ってトラブルになっていたり、非正規労働者だったり弱い立場にある人が多く、解雇されやすい。2008年のリーマン・ショック後は、自殺願望や自殺未遂の経験を持つ当事者の受診が増えたとのデータがある。精神面のサポートや経済対策が求められている。